

ことばの教室だより

白岡市立篠津小学校
平成30年11月号

春は不安そうな表情も見られた1年生も、すっかり学校に慣れて楽しそうに過ごしている様子がかえります。落ち着いてきたこの時期、発音が気になる子、心配な子はいませんか？ 二者面談や懇談会などを機に、担任の先生と保護者の方でお話ししていただくとよいと思います。1年生に限らず、またどんな小さなことでも相談を受け付けますので、お気軽にご連絡ください。

「発音の誤りのある子」とは…

「からすのあかちゃん」というべきところを「たらすのあたちゃん」と言ってしまうなど、カの音がいつも正しく言えないようなとき発音に誤りがあると言います。そして、カの発音ひとつが正しく言えないだけでも、会話の中では話の内容が相手に伝わりにくくなってしまいます。

このように、会話をしていて相手に「ちょっと変な話し方」とか「何をいっているのかわかりにくい」と感じさせたり、子ども自身もそのことのために嫌な思いをしたり、消極的になってしまうなど、正しく発音されない話し方のために、いろいろな不都合が生じてしまう場合があります。

でも、子どもは初めから全ての発音を正しく言えることはないのです。2～3歳の子が「さかな」を「ちゃかな」と言っても誰も変とは思いませんので、そのような子は発音に誤りを持つ子とはいいいません。年齢によっても違います。



「発音の誤りのタイプ」

<音を省略して発音してしまう場合>

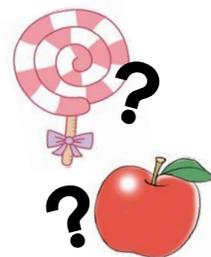
・「かめ」→「あめ」、「まり」→「まい」のように語音の子音部分が省略されてしまい、アイウエオの母音だけを発音しているように聞こえます。

<違う音にかえて発音してしまう場合>

・「さかな」→「たかな」、「からす」→「からちゅ」のようにサ行がタ行やチャ行にちがえて発音してしまうなど、他の違う音に置き換えて発音してしまいます。

<いろいろ歪んだ発音になってしまう場合>

・「りんご」を「でいんご」とも「ぎんご」ともつかない、正しい語音に似ているけれども正しく発音されておらず、耳で聞くと不明瞭で歪んだ発音に聞こえます。



発音の悩み Q&A

Q. 赤ちゃん言葉がなかなか治りません。

A. 「テンテイ」→「チェンチェイ」「シェンシェイ」→「センセイ」と徐々に正しい音に近づいているなら、少し様子を見てもいいかもしれません。音に変化がなく長く誤りが続いている、他のサ行も一貫して言えない場合は相談をお勧めします。

Q. 口の中にこもったような滑舌の悪いしゃべり方ですが、自然になおりますか？

A. 「なんとなくはっきりしない」「滑舌が悪い」という場合、発音の時の舌のクセの場合が多いようです。小学校入学前までに習慣化して使っていると自然に治ることは難しい場合が多く、高校大学の面接や就職試験の頃悩むこともあるようです。

Q. 家庭や学級で言い直しをさせていけば、正しく言えるようになるのでしょうか？

A. 注意や言い直しを繰り返されると、音読や話すこと、歌うことが嫌いになってしまったり、自分に自信がなくなったりしてしまうようなことがあります。また、言い直しをさせると子どもなりに音を出そうとしてかえって舌に変なクセを付けてしまうこともあります。発音がおかしいなと思っても、話の内容に共感することを優先させ、了解の証しとして正しい発音のことで復唱してあげる程度にします。

Q. ことばの教室へ通った方がいいのか迷っています。

A. ことばの発達には非常に個人差があり、お子さんの様子によって対応の仕方も様々です。自然改善するか、もう少し様子を見るか、指導が必要かなど、専門的な診断が必要となります。気になることがあったら、ことばの教室にご連絡ください。課題の把握と今後の見通しをお伝えします。



保護者からのお手紙

幼少期に気にはなっていましたが、成長とともに改善されるのかなと思っていた娘の発音。入学して間もなく担任の先生からご指摘と

退級の時に書いていただいたお手紙です。保護者の方の温かな見守りとご協力のおかげで指導を行うことができました。



ことばの教室を案内されました。ことばの教室では、優しい石塚先生に指導して頂き、緊張気味の娘の様子がどんどん心を緩めていくのを感じました。～中略～ 丁寧な指導を頂いたおかげで、娘の発音も成長することができました。早い時期に気付かせてくれた担任の先生、優しく適切な指導の石塚先生、有難うございました。



随時受け付けています！

白岡市教育委員会
0480-92-1111 (代表)
篠津小学校ことばの教室
0480-91-0017 (直通)

